



筑波山と桜 撮影者：香取逸美

筑波嶺

土浦協同病院新聞

第 67 号

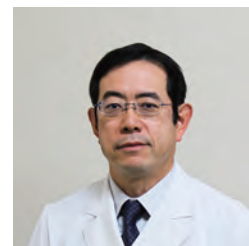
発行所：土浦協同病院
おおつ野四丁目 1 番 1 号

発行人：家坂 義人
題 字：登内 眞

平成 29 年 5 月 15 日発行

診療科紹介：心臓外科・血管外科

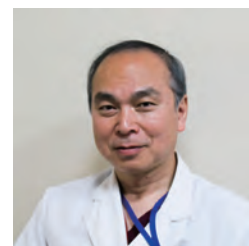
心臓や大血管などの循環器疾患は直接、寿命に関係するため時期を逃さずに適切な治療をすることが大事です。難しい病気でもあるので十分に理解していただいた上で、最適の医療を安全確実に実施できるよう心がけています。様々な成人心疾患の手術を行っています。すが、なかでも狭心症や心筋梗塞に対する冠動脈バイパス術では回復が早いオフポンプバイパス術を、また、弁膜症のうち僧帽弁閉鎖不全症に対しては弁形成術を第一選択としています。近年増加している大動脈弁狭窄症に対しては、内科も含めたハートチームで個々の患者さんの状態を検討した上で、従来どおりの人工弁置換術か、TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）かを決定することになっています。また、胸部大動脈瘤に対してもステントグラフト治療か、あるいはハイブリッド手術かを部位や形態に応じて最適な治療を選択しています。小児の先天性心疾患に対する手術も今まで通りこの地域で完結できるように行っておりま。これからの地域住民の皆様信頼にゆえられる医療を目指して努力してまいります。



心臓外科部長
広岡 一信



命を救う、足を救う、動脈瘤と動脈閉塞のハイブリッド治療、血管外科では最新のハイブリッド手術室で血管内治療（カテーテル治療やステントグラフト手術）と通常手術（バイパス手術や人工血管置換など）を組み合わせて行っています。命を救う（動脈瘤の治療）とともに、血管の病（動脈閉塞）で足を失わないようにすること、生活の質を維持することが使命と考え、他科他職種と連携して下肢救済チームとしても活動しています。歩いていけるとふくらはぎが痛くなる、特に階段や坂道はすぐ歩けなくなるという人は是非ご相談ください。



血管外科部長
大貫 雅裕

学会・海外出張報告

アメリカ・ヒューストン

外科部長 松本 日洋

平成29年3月22日から3月25日まで米国のヒューストンで開催された Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (SAGES) に参加してきました。学会中は好天にめぐまれ、日中は歩いていると汗ばむくらいでした。発表は、当院で腹腔鏡下直腸手術の際に使用している Rectum Catcher Device (メッシュ棒) の使用経験や surgical and oncological にまとめたものでした。すでにこの便利なデバイスについては、米国の Annals of Surgical Endoscopy をはじめとていくつかの学術誌にも掲載されていますが、米国での video の口演は初めてでした。

また、今回初めて開催された Humanitarian Event にも参加して

ました。テキサス子供病院にプレゼントを送るために行う事業で、食事をしながら全世界のいろいろな地域から参加してきた方々と意見交換ができて（正直言うところ、自分の家族や地域の行事のことを話したり、堅苦しくなくてこっちのほうが楽しかった。はじめは、日本から来た人はひよっとすると一人で、一人つきりになっちゃう!!）と思っていたら、みんなが、こちらに来て話しかせんと誘ってくれて、いつの間にか、みんなの輪の中に入っていた。米国人をはじめ、外国の人はとても friendly でした！楽しいひとときを過ごしました。



部署紹介

予防医療センター

藤田 英樹

予防医療センターでは、健康寿命を延ばし、健康で豊かな人生を楽しんで頂くために健康診断や保健指導を主に行っています。健診を行った後に精査が必要となった場合も、当院の診療科へスムーズに移行できる体制を整えています。

新病院になり、ハード面で大幅に改善されました。がんの早期発見では、一度に全身を撮影して小さながんを見つける PET/CT や、高精度・高感度のデジタルX線撮影が可能なマンモグラフィを導入しています。また、当センター内の通路や更衣室等も広々とした開放感のある空間になっています。レディースフロアを設けて男女別動線にすることで、女性も安心して健診を受けることができます。保健指導のための個室を設け、プライバシーの保護と、詳しく話を聞きやすい環境も整えました。受診者が次回も受診したいと思って頂けるようにスタッフ一同、日々励んでいます。



5B病棟

遠藤 香織

5B病棟は一般病床51床と、総合周産期母子医療センター内のMFIICUという母体胎児集中治療室9床（現在6床稼働）を有する産婦人科病棟です。スタッフは医師12名、助産師43名、看護師2名、看護補助者1名の総勢58名です。平成28年は1207件の分娩を取り扱い過去最多でした。また産科救急においては、新生児科や救急科等の協力を得て原則全症例を受け入れています。病院移転後、出産はプライベート空間である個室で行い、産後は母乳を推進する国際ブクテーションコンサルタントの資格者を中心に育児支援をしています。

そして平成27年より誕生したアドバンス助産師（自律して助産ケアを提供できる認定された助産師）9名が教育的立場となり、医師と共により良い医療・看護サービスが提供できるように努力しています。次世代を担う赤ちゃんの誕生を全力でサポートさせていただきます。



土浦協同病院附属看護専門学校 平成 29 年度 入学式を迎えて

1 学年担任 深谷 素子
永山 美子
馬場 智子

春風の心地よい 4 月 6 日、土浦市おおつ野に新築移転後、初めての入学式を迎えました。第 45 期生となる 117 名（うち男子 9 名）の新入生達が、来賓、保護者、在校生の先輩方に見守られ、渡部誠一学校長の入学許可を得ました。「これからの看護学校での学校生活を、専門職になる自覚と誇りをもって学んで欲しい」と祝辞を頂いた新入生代表の飯笹海飛さんは「45 期生一同が共に助け合いながらも切磋琢磨することによって、知識・技術の習得のみならず、人間性・協調性の向上を図っていきたいです」と堂々とした態度で決意を述べられました。現在、医療の現場では患者と家族の意思を尊重し、その人らしい生活を支援する役割が看護に要求されています。本校は、専門知識・技術の習得はもちろん、多様な人々の気持ちを思いやり察する力や、協調性を培っていきけるような学習環境を整えながら、教員一同で支えていきたいと考えています。3 年後、茨城県厚生連病院での活躍に期待しています。



入学式の様子

モナコ公国・モナコ

心臓外科 安川 峻

今年3月2日〜4日にモナコで開催された第12回国際弁膜症学会 (Heart Valve Society Scientific Meeting 2017) に参加してきました。外科医だけでなく内科医や基礎研究者も集まって弁膜症を議論する貴重な国際学会です。各セッションの初めに Key-note Lecture が行われるのですが、その講師陣はトップジャーナルに毎年数多くの論文を出す弁膜症の権威ばかりで圧倒されました。今まさに流行りの経皮的な大動脈弁置換術 (TAVI) や弁形成術の内容が多く、中でも大動脈弁形成術のセッションは人で溢れかえっており注目度の高さがうかがえました。日本未導入のカテーテル治療デバイスの臨床成績も多く報告されており、低侵襲化の波を実感しました。

レクチャーもさることながら、権威達の間で繰り広げられる最先端の生体カッションを見聞きした時間は非常に贅沢でした。私自身はポスター発表でしたが、大型モニターに予め送付した PDF 形式のポスターが映し出される POSTER と呼ばれる形式で、印刷したポスターを持ち

込んで掲示する必要はありません。さらにランチタイムにはポスター会場にビュッフェ形式の食事が並べられ、それぞれが立食しながらフランスにディスカッションしており、日本の国内学会では見られない光景でした。フランスの先生に質問されて非常に緊張しましたが、最後に、Great Thank you. と笑顔で言ってもらいほっとしました。今回の学会に参加して、これからの心臓外科医はカテーテル手技も含めた低侵襲治療のスキルが必要になること、そして月並みですが、英語でニュアンスも含めて伝えたいことを伝えられるスキルの重要性を痛感しました。



こどもの腹痛 主な原因

- 1 位：便秘症
- 2 位：急性胃腸炎
- 3 位：かぜ症候群

緊急性を見分けるポイント

- ① いつもと違う（不機嫌、ぐったりしている）
- ② 痛みが強く歩けない
- ③ 夜眠れない状態
- ④ 嘔吐物が緑色、赤い

鯉のぼりの風が舞う季節になりました。皆様、ご健勝のことと存じます。今回は、こどもの腹痛について説明いたします。こどもの腹痛は様々な原因により起こります。こどもの腹痛の主な原因として多いのが便秘症（30〜40%）、次いで急性胃腸炎（15〜20%）、3番目にかぜ症候群（10〜20%）といわれています。緊急性のある腹痛の観察のポイントとして、①いつもと違う（不機嫌、ぐったりしている）、②痛みが強く歩

けないこと、夜間も眠れない状態、③嘔吐物が緑色、赤いなどがあります。また、こどもの年齢によって言葉で腹痛を表現することが難しいこともあるため、日頃のお子さんの状態との違いを感じとり、病院を受診してください。こども達は環境や生活の変化によって体調を崩しやすい、そのため、バランス良い食事をとり、十分な睡眠をとることで心身ともに元気に過ごせることが重要だと思います。



リレー掲載 28 回 専門看護師・認定看護師リレー便り 「こどもの腹痛」

小児救急看護認定看護師
瀧田 玲子



平成 29 年度

新人看護職員研修

看護部教育委員会
大槻勝明

新病院へ移転し 2 年目となった今年度の土浦協同病院看護部では 66 名の新人看護職員を新たに迎えました。新人看護職員研修は、平成 21 年 7 月に保健師助産師看護師法および人材確保に関する法律の一部改正に伴い看護の質向上、医療安全の確保、早期離職防止の観点から、平成 22 年 4 月に新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務化されました。当院においても、同年 4 月より卒後臨床研修のプログラムを構築し実施しています。

研修内容は、看護師としての知識・技術だけではなく社会人としての接遇、マナーなど、現場にすぐ活用できるものとし、さらに、新人同士が悩みや不安など共有し、話し合える環境調整により、それぞれが課題を達成できるよう「リフレッシュ研修」を組み入れています。新人研修の最大の目的は、看護師に必要な基本的技術の習得と、リアリティーショックを軽減することにあります。このリフレッシュ研修は 10 年前より、新人教育企画に組み入れています。定期的に同期の仲間と話し合う時間を共有することで、ストレスの軽減とモチベーションの維持向上に繋がっていると実感しています。

オリエンテーションが終了し、新たなスタートラインとしてそれぞれの配置場所に分かれ、臨床研修が始まり 1 カ月が過ぎようとしています。すでに、さまざまなストレスを感じ、悩んでいる新人もいるかと思いますが、それぞれ胸に抱いた看護観を忘れず、自分がいま“何ができるのか”、“何をすべきなのか”を考え、自律し成長していけることを願いつつ、継続してサポートしていきたいと思っています。



連載_第 31 回

DPC とベンチマーク

DPC 評価委員会委員長
情報システム管理室

船越 尚哉

2016 年度月別の診療実績の中から、4 項目を表に示します。新病院移転後までもない 4 ～ 6 月の診療実績は満足できるものではありませんでした。その後、実績は急速に改善し今日に至っています。もう一つの特徴として、後半で顕著ですが、月間の変動が少なくなっています。実績が劣る月がないことは良い徴候ですが、見方を変えるとより一層の実績の上積みを図る場合、新たな取り組みが必要であるとも考えられます。入院待機患者が増加する現状を踏まえ、職員数一層の増加、中央病床管理の実施等が求められます。

年／月	退院数	平均在院 日数	医療看護必要度 重症患者割合	1 日単価
2016/04	1,374	11.7		¥73,396
2016/05	1,297	12.9		¥68,414
2016/06	1,369	12.5		¥69,669
2016/07	1,463	13.0		¥71,937
2016/08	1,498	12.0		¥71,657
2016/09	1,410	12.0		¥74,252
2016/10	1,419	12.3	27.8%	¥72,596
2016/11	1,424	12.3	29.2%	¥72,955
2016/12	1,522	13.2	30.2%	¥74,414
2017/01	1,219	12.7	29.0%	¥70,587
2017/02	1,445	12.1	30.9%	¥74,539
2017/03	1,491	12.6	29.7%	¥74,831

永年勤続表彰を受けて

平成 29 年 3 月 30 日、水戸市にある茨城県 J A 会館において看護師長谷川幸子、田所たか子、医療秘書戸田道子、前田美津恵、塚本美穂子の 5 名が永年勤続表彰を授賞致しました。入職してから 25 年という長い間には私達にも色々なことがありました。

今回は代表して私（長谷川）が謝辞を述べさせていただきます。私は入職後整形外科・小児科・血液内科・外来など様々な部署で勤務してきました。その中でも印象深い出来事として、平成 7 年の

茨城県地域がんセンターの開設や、昨年には新病院の開院と病院機能評価受審などがありました。

これまで長い間勤務できたのも、諸先輩方を始めスタッフの皆様のご指導や家族の支援があったからだと感じています。今後はご指導、ご支援いただいたことをもとに、感謝の気持ちを持ち努力を続けていきたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。



看護主任 長谷川 幸子

第 1 回土浦協同病院学術集会（旧院内看護研究発表会）を終えて

看護部教育委員会 研究部門 豊田 江美子

平成 29 年 3 月 11 日に第 1 回土浦協同病院学術集会を開催致しました。年 1 回行なわれているこの会は、今年で 25 回目となります。新病院を機に、研究発表に加え、専門・認定看護師の会による講演、つくば国際大学教授藤岡寛先生の講義を入れた 1 日の予定で開催しました。

し、参加者が閲覧できるようにしました。参加者からは、他部署の発表した内容を知ることができ勉強になる、などの意見が聞かれ有意義な集会となりました。看護研究は、日々の業務を研究的視点で考え、臨床と結び付けることで、よりよい医療環境の場を作るために欠かせないものであり、継続しなくてはなりません。そのためにも、今後も内容を検討しながら、会の開催を企画していきたいと思っています。



